

「苔じゃないコケの話」

1 苔じゃないコケって何？

苔じゃないコケと言うのは、正式には地衣類といます。
これは菌類（カビの仲間）と藻類の共生体のことで、地衣体と呼ばれる器を菌類が作りその中に藻類を住まわせる。藻類は其中で光合成をしてアミノ酸を作り出し、それを菌類に提供するという暮らしをしています。

2 地衣類はどんなところにあるの？

結構いろいろなところで目にすることができます。一番身近なところでお墓やコンクリートの塀、街路樹、桜の木、果ては放置された車のボンネットなどです。

3 地衣類と人間のとの接点は？

染料や食料品、お茶などに利用されています。またトナカイなどの冬季の食料などになることでもよく知られています。

染料として有名なのがリトマスゴケです。理科の実験などでよく使われるリトマス試験紙の原料です。日本アルプスではイワタケは佃煮などになります。雪茶と呼ばれる中国茶も地衣類の仲間です。

4 どんな種類があるんだろう？

日本には約2000種類といわれています。京都にも約100種類ほど見ることができます。
大きく分けると
葉状地衣、痂状地衣、樹状地衣の3つの形態に分けることができます。

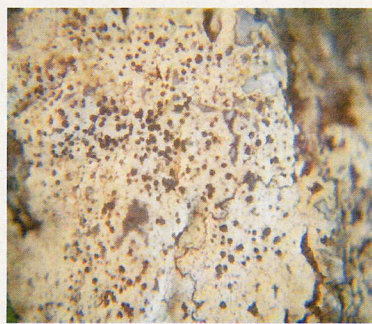
葉状地衣とは

はムカデゴケの仲間です。
このような形をしており、代表的なものとしてウメノキゴケやマツノキゴケなどです。



痂状地衣とは

画像はスミイボゴケ。
よく石の表面で見られるもので、石のシミのようなものです

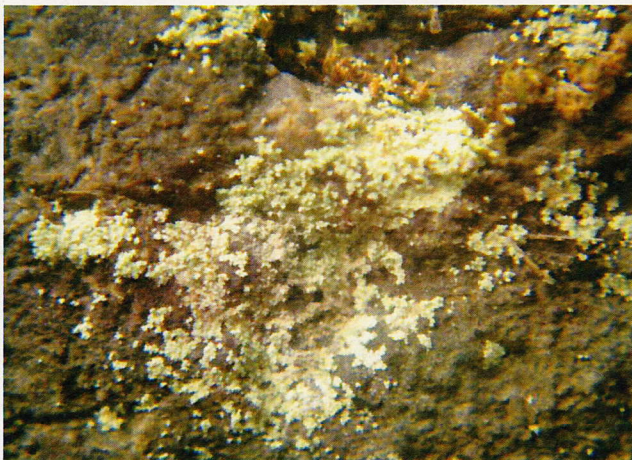


樹状地衣とは

画像はヤリノホゴケ。このように枝状の軸がでかかなり特徴的なものが多い。



京都市内で見られる地衣類



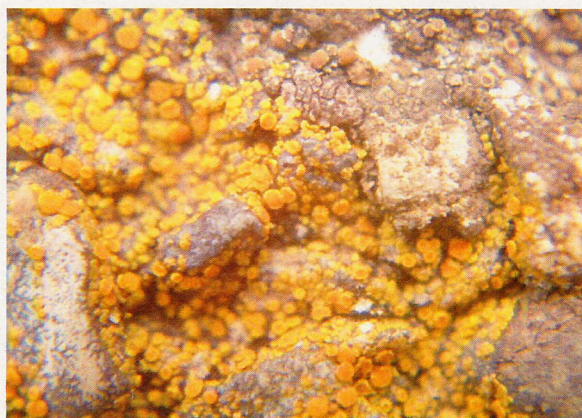
不完全地衣類と呼ばれるものです。よく街路樹の表面を覆っている緑もしくは黄緑のものが一般的です。
子実体を形成しないため、どの分類にも所属しない地衣類で、画像のものはレブラゴケとよばれるもの。
これは一般的に汚染に強く都市部でもよく見られます。



痂状地衣の代表でヘリトリゴケの一種。これらもよく見られる地衣類です。
画像のように石の表面を覆うように伸びていきます。
この仲間は比較的成長が早く、一年で約7ミリほど成長します。
和歌山県古座川町の一枚岩には縦156cm、横184cmという巨大なものも存在しています。
この大きさとやく1,318歳ということになりますね。



ハコネイボゴケ。
ハコネで発見（新種として認定）されたのでこの名前がついていますが、全国的に見られる地衣類。



金属の表面につく地衣類。
地衣類は全般に成長が遅く、また環境の変化に弱いため変化の少ないところに発生します。
また、地衣体はそこに根ははるけれども樹木や石からは栄養を取ることがないので、このように金属にもつきます

ダイダイゴケ
都市部で最もよく見られるものの一つ、コンクリートなどの表面でよく見られます。
鮮やかなオレンジなのでとても目立つように見えるのですが、実際はとても地味です。
画像のものは水をかけて水分を含ませたものです。水分を得ると画像のように目立つ色に変化します。



ウメノキゴケ

葉状地衣類の代表格ともいえる地衣類です。
この地衣類は日本でも染料として用いられるもの、染料を作るのに1年以上かけて熟成させなければならずかなり手間がかかります。
またこれとよく似たものでマツノキゴケというのもあり、日本画の松ノ木に緑の円形が描かれていれば多分それを書き込んだものでしょう。

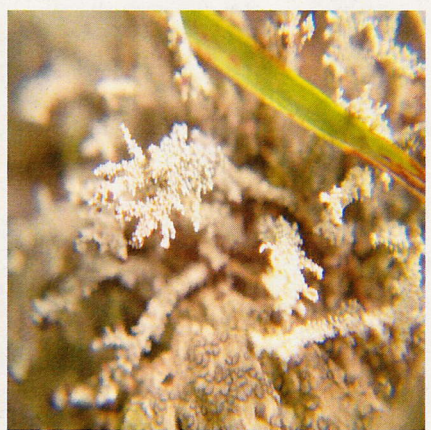
樹状地衣類



ナギナタゴケ



ジョウゴゴケ



サンゴゴケ



コアカミゴケ



キゴケ

これらは樹状地衣類と呼ばれるもので、環境劣化に弱いため都市部で見られるのはまれです。
一部はお寺の中の石垣や御所の中で見られます。

写真：吉川高太

参考資料
野外観察ハンドブック 校庭のコケ
Field Books しだ・こけ
原色地衣植物図鑑 吉村 庸 著

中村俊彦・古木達郎・原田浩 共著
岩月善之助解説